

講義コード	1321	科目区分	スポーツ健康福祉専攻
(フリガナ)	ヤガイカツドウⅡ(アクアスポーツ)	(フリガナ)	クニキタカハル/オカザキユウスケ/イガワタカヒロ/ニシヒロフミ
授業科目名	野外活動Ⅱ(アクアスポーツ)	担当教員名	國木孝治/岡崎祐介/井川貴裕/西博史
英文授業科目名	Aqua Sports & Water Risk Management		
基準年次(開講期)	2年生(前期)	履修形態	選択
曜日/時限/講義室	夏季集中(2泊3日)		
授業の方法	演習	授業の方法(詳細情報)	演習中心
単位	2	週時間	
授業のキーワード	アクアスポーツ、マリンレジャー、マリンスポーツ、オープンウォーター・スイミング、着衣泳、サーフ・ライフセービング、ウォーター・セーフティ、サーフ・レスキュー、心肺蘇生法、PFD、カヤック、カッター、SUP、SUPヨガ、SupSquatch、サーフィン、スノーケリング、野外活動		
授業概要・目的	<p>現学習指導要領では、生きる力を育む理念のもと、体験的な学習活動を積極的に取り入れることが求められている。体験活動の具体例としては、自然の偉大さや美しさに出会ったり、その中で友達と関わったりしながら協同的に学ぶ自然体験活動が挙げられる。なお、現在の児童・生徒を取り巻く社会環境の中では、自然の中での遊び体験が不足しており、水辺活動などの実施が奨励されている。しかし現実的には、危険を多くはらむ環境であるという安全の消極的認識や専門知識の不足などから、学校教育過程における水辺教育を積極的に実施しているところは、決して多いとは言えない。</p> <p>本授業は、履修者の生涯スポーツに繋がるアクアスポーツの実践にある。したがって、夏季のシーズンスポーツとしてアクアスポーツを取り上げ、大自然の中で基礎的な知識や技術を学習し、生涯にわたり年齢・体力に応じた野外活動の楽しみ方を養うことを第1の目的としている。そして第2に、幼・小・中・高等教育における自然体験活動(海浜・海洋)の指導技術を修得するとともに、アクアスポーツに関する安全教育や水泳管理、集団生活の実践的態度を体得することを課題としている。</p> <p>なお、2年生から4年生までの全専攻学生の受講が可能であるため、例えば、4年生時における受講では、これまでの学習経験を総合して「総合的能力・技能」を獲得する可能性も学習の成果として期待される。</p> <p>・県立油谷青少年自然の家(山口県)の施設を活用して集中的に行う。  <del>・授業は事前学習(自学)・中学習(学外学習)・事後学習(レポート)を構成する。</del></p>		
到達度評価の評価項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然の中で行われる活動の計画方法や健康管理を理解し、実習を安全に実施することができる。</li> <li>・アクアスポーツを体験することにより、生涯にわたり年齢・体力に応じたアクアスポーツ及び野外活動の楽しみ方を養うことができる。</li> <li>・マナーや協調性などの社会的スキルを身につけることができる。</li> <li>・アクアスポーツに参加する年齢・体力に応じた指導方法を身に付けることができる。</li> <li>・水辺の安全管理について考え実践することができる。</li> <li>・AED等を用いたBLS(一次救命処置)に関する知識・技術が習得できる。</li> </ul>		
授業計画			
第1回	ガイダンスおよび事前学習 野外活動の教育的意義。実習の概要について(役割分担と準備)		
第2回	ライフセービング演習① 自助法: PFD(ライフジャケット)の着用、浮き身、着衣泳、救助の手順		
第3回	教育的効果をねらいとするアクアスポーツ体験 カッターレッスン		
第4回	教育的効果をねらいとするアクアスポーツ指導演習 カッター指導法		
第5回	ライフセービング概論 海辺のリスクマネジメント: 気象・海象、事故と法的責任		
第6回	静水海域におけるアクアスポーツ体験① カヌー・シーカヤックレッスン		
第7回	静水海域におけるアクアスポーツ指導演習① カヌー・シーカヤック指導法		
第8回	ライフセービング演習② 救命法: 心肺蘇生法(CPR+AED)		
第9回	静水海域におけるアクアスポーツ体験② SUP(スタンドアップ・パドルボード)パドルリング・SUPヨガレッスン		
第10回	静水海域におけるアクアスポーツ指導演習② SUP(スタンドアップ・パドルボード)パドルリング・SUPヨガ指導法		
第11回	ライフセービング演習③ 溺者救助法: ライフセービング(レスキューボード、レスキューチューブを使った救助法)		
第12回	波のある海域におけるアクアスポーツ体験 サーフィン・ボディサーフィンレッスン		
第13回	波のある海域におけるアクアスポーツ指導演習 サーフィン・ボディサーフィン指導法		
第14回	水面下におけるアクアスポーツ体験および指導演習 スノーケリングレッスン、スノーケリング指導法		
第15回	事後学習 実習報告書、実習レポートの作成		
教科書・参考書等	適宜資料を用意する。以下、予習・復習にあたる参考図書を紹介する。 ・日本ライフセービング協会編(2016)BLS. ・日本水泳連盟編(2012)水泳指導教本. ・日本ライフセービング協会編(2012)ウォーターセーフティ教本.		
授業で使用する機器等	レスキューチューブ、レスキューボード、カヌー、シーカヤック、カッター、PFD、ヘルメット、パドル、SUP、SupSquatch、サーフボード、スノーケリングとマスク、足ひれ、ゴーグル、リトルアン、AEDトレーナー、バックボード、キックボード、ロープ、PC、プロジェクター		
予習・復習へのアドバイス	マリンレジャー・スポーツの歴史などを調べておくとよい。		
履修上の注意・受講条件等	・本授業は、宿泊を伴う2泊3日の海洋演習からなるため、悪天候・海況によっては授業内容が大きく変更する可能性がある。 ・健康スポーツ実習(水泳・水中運動)を履修していることが望ましい。		
成績評価の基準等	・原則、全日程の出席を以って評価する。 ・授業出席状況、授業への取り組み、事後学習におけるレポートを基にして、総合的に評価する。		
メッセージ	日本海に面した山口県の海洋を利用したアクアスポーツの数々を体験します。生涯活動として、自然体験活動指導者として、或いは親が子に伝える野外教育の1つとして、体験を通してその知識や技術を身につけてみませんか? 専攻問わず、たくさんの履修をお待ちしています。なお、本授業は学外施設を利用のため、8,000円程度の個人負担が必要となります。		
オフィス・アワー	各期オフィス・アワー時に國木孝治研究室(7号館:726)にて対応する。		
その他	・学生の希望があれば、本授業を履修することで、(財)日本ライフセービング協会認定「ウォーターセーフティ」または「BLS(CPR+AED)資格の発行(別途有料)、或いは「ライフセービング・サポーター」の修了証(無料)を発行します。 ・山口県油谷青少年自然の家(山口県長門市油谷伊上1068)とその周辺海域で実施し、実施期は8月第4週(平日)を予定しているため、掲示版を確認のこと。		